平成22年第3回
美唄市議会定例会会議録
平成22年9月17日(金曜日)
午前10時00分 開議

議事日程

第1 会議録署名議員の指名

第2 委員長報告

- 1 議案第61号 美唄市給与条例の一部改正の件(総務・文教)
- 2 議案第62号 美唄市職員の育児休業等に関する条例の一部改正の件(総務・文教)
- 3 議案第63号 美唄市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部改正の件(総務・文教)
- 4 議案第64号 美唄市職員の修学部分休業に関する条例の一部改正の件(総務・文教)
- 5 議案第65号 美唄市火災予防条例の一部改正の件(総務・文教)
- 6 議案第66号 美唄市立学校設置条例の一部改正の件(総務・文教)
- 7 議案第67号 指定管理者の指定の件(美唄市南美唄福祉会館)(産業・厚生)
- 8 議案第68号 美唄市企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正の件(産業・厚生)
- 9 議案第69号 平成22年度美唄市一般会計補正予算(第4号)(予算審査特別)
- 10 議案第70号 平成22年度美唄市国民健康保険会計補正予算(第1号)

(予算審査特別)

- 11 議案第71号 平成22年度美唄市老人保健会計補正予算(第1号)(予算審査特別)
- 12 議案第72号 平成22年度美唄市介護保険会計補正予算(第2号)(予算審査特別)
- 13 認定第1号 平成21年度美唄市一般会計決算認定の件(決算審査特別)
- 14 認定第2号 平成21年度美唄市民バス会計決算認定の件(決算審査特別)
- 15 認定第3号 平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件(決算審査特別)
- 16 認定第4号 平成21年度美唄市老人保健会計決算認定の件(決算審査特別)
- 17 認定第5号 平成21年度美唄市下水道会計決算認定の件(決算審査特別)
- 18 認定第6号 平成21年度美唄市介護保険会計決算認定の件(決算審査特別)
- 19 認定第7号 平成21年度美唄市介護サービス事業会計決算認定の件(決算審査特別)
- 20 認定第8号 平成21年度美唄市後期高齢者医療会計決算認定の件(決算審査特別)
- 21 認定第9号 平成21年度市立美唄病院事業会計決算認定の件(決算審査特別)
- 22 認定第10号 平成21年度美唄市水道事業会計決算認定の件(決算審査特別)

- 23 認定第11号 平成21年度美唄市工業用水道事業会計決算認定の件（決算審査特別）
- 第3 議案第73号 美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件
- 第4 議案第74号 美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件
- 第5 意見書案第14号 道路の整備に関する意見書
- 第6 意見書案第15号 国民健康保険への国庫負担の増額を求める意見書
- 第7 意見書案第16号 介護保険料・利用料の軽減制度の確立を求める意見書
- 第8 意見書案第17号 森林・林業政策の早急かつ確実な推進に関する意見書
- 第9 意見書案第18号 B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書
- 第10 決議案第1号 第6期美唄市総合計画調査特別委員会設置に関する決議

出席議員（15名）

- 議長 内馬場 克 康 君
- 1番 吉 岡 文 子 君
- 2番 森 川 明 君
- 3番 五 十 嵐 聡 君
- 4番 高 田 正 則 君
- 5番 高 橋 幹 夫 君
- 6番 阿 部 義 一 君
- 7番 長谷川 吉 春 君
- 8番 米 田 良 克 君
- 9番 白 木 優 志 君
- 10番 小 関 勝 教 君
- 11番 土 井 敏 興 君
- 12番 本 郷 幸 治 君

- 13番 紫 藤 政 則 君
- 14番 林 国 夫 君

欠席議員（1名）

- 副議長 谷 村 孝 一 君

出席説明員

- 市長職務代理者副市長 板 東 知 文 君
- 総務部長 藤 井 英 昭 君
- 市民部長 岩 本 良 一 君
- 保健福祉部長兼福祉事務所長 中 川 直 紀 君
- 商工交流部長 中 井 英 雄 君
- 農政部長 須 田 正 毅 君
- 都市整備部長 山 口 隆 慶 君
- 市立美唄病院事務局長 高 倉 雄 治 君
- 消 防 長 霜 田 公 法 君
- 総務部総務課長 大 崎 聡 君
- 総務部総務課総務係長 村 上 孝 徳 君

- 教育委員会委員長 白 戸 仁 康 君
- 教 育 長 安 田 昌 彰 君
- 教 育 部 長 前 田 敏 和 君

- 選挙管理委員会委員長 後 藤 泰 彦 君
- 選挙管理委員会事務局長 秋 場 勝 義 君

- 農業委員会会長 佐 藤 博 道 君
- 農業委員会事務局長 林 忠 男 君

- 監 査 委 員 扇 谷 均 君
- 監査事務局長 鎌 田 覚 君

欠席説明員

- 市 長 桜 井 道 夫 君

事務局職員出席者

事務局 長 岡 嶋 博 文 君
次 長 中 平 匡 司 君

午前10時00分 開議

議長内馬場克康君 これより本日の会議を開きます。

議長内馬場克康君 日程の第1、会議録署名議員を指名いたします。

9番 白木優志議員

10番 小関勝教議員

を指名いたします。

議長内馬場克康君 次に日程の第2、委員長報告に入ります。

順序1、議案第61号美唄市給与条例の一部改正の件ないし順序23、認定第11号平成21年度美唄市工業用水道事業会計決算認定の件の以上23件を一括議題といたします。

本件について、それぞれ委員長の報告を求めます。

初めに、議案第61号ないし議案第66号の以上6件について、小関総務・文教委員長。

小関勝教総務・文教委員長（登壇） ただいま議題となりました議案第61号美唄市給与条例の一部改正の件、議案第62号美唄市職員の育児休業等に関する条例の一部改正の件、議案第63号美唄市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部改正の件、議案第64号美唄市職員の修学部分休業に関する条例の一部改正の件、議案第65号美唄市火災予防条例の一部改正の件及び議案第6

6号美唄市立学校設置条例の一部改正の件の以上6件について、総務・文教委員会の審査の経過並びに結果をご報告申し上げます。

経過といたしまして、9月7日、委員会を招集して、審査いたしました。

議案審査における質疑・答弁の主なものを申し上げます。

それぞれ関連がありますので、議案第61号ないし議案第63号について、申し上げます。

議案第61号から第63号に関連して、休業している職員がいる部署での職員配置というか、休んでいる職員の作業ローテーションというのは、職場の中でどのように対応されているのか、との質疑に対し、職員が育児休業等に入る場合の職員の配置については、人事の適正配置で対応する場合と、業務量に応じて臨時職員や嘱託職員で対応できるような体制をとるということもあり、それぞれの職場の業務状況に応じて支障がないように対応してきている。との答弁。

議案第61号から第63号までの関係で、今回の国の介護休業法、育児休業法の改正によって、自治体でも必要な条例改正を行なうということだが、改正に当たって国の方から、留意点や注意をしなければならぬ点などの指導のようなものはあったのか。

また、条例なので市独自でそれぞれ決められるものがあると思うが、今回の条例改正に当たって、美唄市独自のものがあるのか、との質疑に対し、条例の改正について、中心となる美唄市職員の育児休業等に関する条例については、育児休業については、基本が国家公務員の育児休業法、それから地方公務員の

育児休業法という法律で、ほとんどのところが規定されており、条例の方では条例で定める特別な例や、「こういう場合は対象から外れます」というものは条例で定めなさい」であるとか、逆に、「こういう特別な場合には受けることができます」というのが主な条例規定となっている状況。

また、今回の改正で国が示した育児休業等に係わる部分で、一定の規定は市の条例に基づいてということだが、規定している中身については、基本的には国が示した部分がほとんどである。との答弁。

短時間の勤務時間というのは少なくとも1日に何時間というふうに法律できまっているのか。例えば、市役所に勤務して1年未満の職員がお産をして、この申請をするという場合にはどのようになるのか。また、今、現在でこういうものに該当する職員は何人位いるのか、との質疑に対し、育児・介護休業法等に伴う短時間労働については、育児・介護の中で新たに短時間労働が認められているが、一般的には週の勤務時間の10分の1の3時間55分と8分の1の4時間55分、それから、週3日の勤務及び週2日半の勤務という4つのパターンの短時間労働だけが、法律上認められるという規定になっている。

また、今回の法律の育児休業法で言えば、臨時職員、嘱託職員の1年未満の短期雇用者の方は対象から外れるということが明記されている。

また、これに該当する職員については、今時点で希望している職員数は分からないが、直近の3年間では、19年度は育児休業の対象者は男性職員が14人、女性職員が5人で

取得したのは男性が0人、女性は全員が取得しており、20年度では対象者は男性職員が4人、女性職員が6人おり、男性の取得者は0人で女性は全員取得、21年度は対象者は男性職員が7人、女性職員が2人おり、男性の取得者は0人で女性は2人とも取得している状況。との答弁がありました。

次に、議案第65号について、申し上げます。

条文中、溶融炭酸塩型燃料電池や固体酸化物型燃料電池、固体高分子型燃料電池というものがあるが、どういう電池なのか。また、それはどのような所で使用しているのか、との質疑に対し、溶融炭酸塩型燃料電池というのは化石燃料で、例えばLPガスから水素を取り出すために炭酸リチウム、炭酸カルシウムなどの炭酸塩を用いて、水素を取り出し酸素と反応させて電気を作り出すもので、一般的には小型のものはエコカーなどの車に使えるものもある。との答弁。

法改正に基づく条例改正ということで趣旨は分かるが、例えば参考資料の21ページの(6)に「複合型居住施設」と表記されているが、美唄には該当する所はあるのか。

また、第6章に「個室型店舗の避難管理」とあるが美唄市には該当する所があるのか、との質疑に対し、条例第29条の5の特例基準に該当する所は今のところ美唄市にはない。個室型の店舗については、市内では、現在、カラオケ店舗が1店舗ある。との答弁がありました。

なお、議案第64号及び議案第66号の以上2件についての質疑はありませんでした。

結果といたしまして、議案第61号ないし

議案第 66 号の以上 6 件につきましては、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

本委員会の決定どおり、ご承認いただきまますようお願い申し上げます。報告を終わります。

議長内馬場克康君 次に、議案第 67 号及び議案第 68 号の以上 2 件について、米田産業・厚生委員長。

米田良克産業・厚生委員長（登壇） ただいま議題となりました議案第 67 号指定管理者の指定の件（美唄市南美唄福祉会館）及び議案第 68 号美唄市企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正の件の以上 2 件について、産業・厚生委員会の審査の経過並びに結果をご報告申し上げます。

経過といたしまして、9 月 7 日、委員会を招集して審査いたしました。

まず、議案第 67 号における質疑・答弁の主なものを申し上げます。

初めに、指定期間を 3 月で締める期間指定の考え方、南美唄福祉会館の運営・収支状況、運営に関わる課題や行政サイドへの要望があるか、との質疑に対し、2 年 4 カ月の指定の考え方は、通常ほかの施設は 3 年間となっているが、平成 19 年 12 月に建設されたこの会館は、市の会計年度と連動させることで、業務の効率性が上がるということで、若干短くした。

福祉会館の運営状況は、20 年、21 年とほぼ横ばい、収支状況は 175 万円前後であり、今年度は 27 万円強の黒字である。

利用者数は 6,000 人強で、新しくなると広く活用されているのが最も良くなったと

ころだと思っている。

課題については、建設位置が若干中心部から離れていること。要望については、周辺道路の整備等があり、今年度、会館前が舗装され、枝切りの作業は地域町内の協力で、先日完了した。現時点では特に大きな要望は無い。南美唄は昨年から南美唄祭りなどを開催しており、一つの地域として非常にまとまった地域だと感じている。との答弁。

次に、所管する地域福祉会館で、指定期間が年度途中からというものがほかにあるか。また、管理人の手当では、どんな相場になっているか、との質疑に対し、指定の期間が年度途中となっている施設は南美唄福祉会館の 1 館だけである。

管理人の手当については、年間 40 万円強の管理人手当を運営委員会の方で支払っており、他の会館では、大体月 2 万円から 2 万 5,000 円前後と承知している。との答弁がありました。

次に、議案第 68 号における質疑・答弁の主なものを申し上げます。

初めに、条文ごとに何が変わったのか、表現だけなのか、また、19 条の「等」とは、育児で早く帰る人のために補充するためのものという理解か、美唄で対象になる人がいるのか、との質疑に対し、改正内容については、字句の修正、言い回しが変わるということで、改正があったときにまとめて字句の修正等を行っている。

第 19 条の再任用職員の部分に入れた「等」については、今までは退職された後の再任用の職員として雇うときに、第 5 条、第 5 条の 2 で、扶養手当の支給、住居手当、寒冷地手

当などを規定していたが、これについては支給をしない形であった。今回の改正で、育児休業をとった職員の部分について、業務の穴埋めをするための短時間勤務職員を採用することになり、この職員がこの手当の支給対象外になる改正をした。との答弁。

次に、17条の3について、なぜ期末手当と勤勉手当を「この限りでない」ということになった理由は、との質疑に対し、手当との関係については、仕事を休むことになると、経済面やその他に影響があり、今回、この制度を有効利用して、現在、少子化対策が求められる中、長期にわたる育児と仕事の両立が可能となるよう、育児のための短時間勤務制度等を導入する意味があると解釈している。との答弁。

次に、制度が拡充され、より良い環境になれば、しっかりと職員に周知することが使用者としての責務であり、現場の使用者、職員監督者、管理者がそういう問題意識で職員に接することが必要ではないか、との質疑に対し、人事管理の総務部と綿密な打ち合わせをしながら取り進めたい。との答弁がありました。

結果といたしまして、議案第67号及び議案第68号の以上2件につきましては、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

本委員会の決定どおりご承認いただきますようお願い申し上げます。報告を終わります。

議長内馬場克康君 次に、議案第69号ないし議案第72号の以上4件について、紫藤予算審査特別委員長。

紫藤政則予算審査特別委員長（登壇） た

だいま議題となりました議案第69号平成22年度美唄市一般会計補正予算（第4号）議案第70号平成22年度美唄市国民健康保険会計補正予算（第1号）議案第71号平成22年度美唄市老人保健会計補正予算（第1号）及び議案第72号平成22年度美唄市介護保険会計補正予算（第2号）の以上4件について、予算審査特別委員会の審査の経過並びに結果をご報告申し上げます。

経過といたしまして、9月8日委員会を招集して審査をいたしました。

議案第69号に対する質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

初めに、基金積立金事業について、1億6,100万円を基金に積み立てるということだが、安心して財政運営ができる基金の額とは幾らか。また、基金の活用は、経済対策に充てるべきだと考えるが、基金の活用の議論はどのような方法で行われるのか、との質疑に対し、一般的にその自治体が標準的な財政運営を行っていく上で必要な一般財源、標準財政規模について、美唄は約90億程度であるが、この標準財政規模の5%程度が理想的と言われており、4億5,000万円から5億円くらいが理想的な金額ということで認識している。また、財政調整基金の活用については、これまで税収の落ち込み、大きな災害、大型公共事業、交付税の落ち込みなど、一定の要件に従い財源対応してきた。今後の活用については、今現在、財政健全化計画推進市民委員会で協議中でもあり、その意見を踏まえて今後検討していきたい。との答弁。

なお、質疑に当たって、資料提出の要求があり、委員会として資料を求めました。資料

の内容につきましては、財政調整基金の取り崩しについて、平成14年から19年までの取り崩し額と取り崩しの内容について記載をした資料で、審査に資することになりました。

次に、国のIT戦略事業としての生活保護事務システム改修等について、今までのレセプト請求事務の課題や不都合が整理できるのか、との質疑に対し、これまで医療費の請求が約6ヶ月以上かかっていたが、システムを導入することにより、約3分の1の2ヶ月程度で確認作業ができる。との答弁。

次に、生活保護事務の電子化により、情報の漏えいが心配される。その対策はとっているか、との質疑に対し、情報の管理についてはインターネットではなく、閉じたシステムの中で処理されている。介護保険も一部認定情報等について、そうしたネットワークの中で処理しているということであり、それらの対応を踏まえながら、生活保護については一層の配慮がされていくものと思っている。

なお、機会を見て、安全性のチェックについて、会議等の場で申し入れしていきたい。との答弁。

次に、インフルエンザ対策事業について、昨年度の新型インフルエンザの接種実態について。また、高齢者のインフルエンザ接種の負担について、前年度に比べて今年度はどのようなになるのか、との質疑に対し、昨年度は3,651人が接種し、そのうち1歳から3歳未満児では2回接種で268人、助成対象については、低所得者、生活保護者に関して、948名が対象となっている。また、高齢者の負担については、接種費用3,000円のうち2分の1の1,500円、これは課税世

帯、非課税世帯とも同じ負担額となっていた。今年度については、現時点では接種費用が国の補助基準による3,600円と想定しており、課税世帯の方は半分相当の1,800円を、非課税世帯の方は新型インフルエンザの要素も含まれるということで、全額助成の対象ということになる。

なお、接種費用3,600円については、今のところ国で示される基準額を基に積算しており、この額については、ワクチン代の流通価格がはっきりしていないため、今、市の医師会の方と調整している状況で、今後若干変わる可能性もあるが、3,600円を上限と考えている。との答弁。

次に、農地基本台帳システム改修事業について、改正農地法の内容と美唄に当てはめるとどうなるのか、との質疑に対し、農地法が改正され、農業生産法人以外の法人も一定の要件を満たせば、農業に参入できるという仕組みになった。

なお、美唄市においては、一般法人の参入に関する問い合わせは1件もない。との答弁。

次に、美唄の農地を、例えば大規模に借りて、企業農業という形のものが入ってくることもあり得ると思うが、この法改正が将来及ぼす影響について、との質疑に対し、賃貸によって農業に参入した一般法人は、年1回その農地の利用状況報告を農業委員会の方に提出する義務づけがされている。その報告に基づいて農地が適正に使われてないということになれば、許可するとき、解除付き契約が付されているので、まず、出し手と受け手の間で解除がなされることが考えられる。次に、それができないということになれば、農業委

員会として現地を確認し、その適正利用について、指導、勧告、取り消しなどの指導を行っていくことになっている。との答弁。

次に、水稻生産の振興事業について、流れとしてはこうなるという大まかな動きはどうか、との質疑に対し、今回の整備で低アミロースの分析も正確にできる機械に入れ替え、機械とは、米成分分析計のことでありませぬ。この機械に入れ替え、正確な分析を行うことにより、米の栽培技術の向上に結びつくと考えている。また、色彩選別機等については、現在では食の安全・安心に対する市民・国民の関心が高まっており、全量色選をかけてほしいという要望があるが、ライス工房で取り扱っているお米を全量色彩選別機にかけると、現有機械では200日近くもかかってしまうため、ライス工房の外にあった別の1組の色彩選別機をライス工房の施設内に移設をして、ラインで自動的につなぐという整備の内容となっている。との答弁。

次に、観光案内看板整備事業について、看板をじっくり見るスペースも必要だと思うが、4車線化になった後、車を止めて看板を見るスペースは確保されているか、との質疑に対し、看板の中身については、基本的には施設の方向、距離を示す表示看板なので、あえて道路で停車して見るような内容にはなっていないので、車を止めるスペースは確保していない。との答弁がありました。

なお、議案第70号、議案第71号及び議案第72号の以上3件については、質疑はありませんでした。

結果といたしまして、議案第69号ないし議案第72号の以上4件については、原案の

とおり可決すべきものと決定いたしました。

本委員会の決定のとおりご承認いただきますようお願い申し上げます。報告を終わります。

議長内馬場克康君 次に、認定第1号ないし認定第11号の以上11件について、小関決算審査特別委員長。

小関勝教決算審査特別委員長（登壇） ただいま議題となりました、認定第1号平成21年度美唄市一般会計決算認定の件、認定第2号平成21年度美唄市民バス会計決算認定の件、認定第3号平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件、認定第4号平成21年度美唄市老人保健会計決算認定の件、認定第5号平成21年度美唄市下水道会計決算認定の件、認定第6号平成21年度美唄市介護保険会計決算認定の件、認定第7号平成21年度美唄市介護サービス事業会計決算認定の件、認定第8号平成21年度美唄市後期高齢者医療会計決算認定の件、認定第9号平成21年度市立美唄病院事業会計決算認定の件、認定第10号平成21年度美唄市水道事業会計決算認定の件及び、認定第11号平成21年度美唄市工業用水道事業会計決算認定の件の以上11件について、決算審査特別委員会の審査の経過並びに結果をご報告申し上げます。

経過といたしまして、9月9日及び10日、9月13日ないし15日の5日間、委員会を招集して審査をいたしました。

委員会の冒頭、副市長から補足説明があり、引き続き代表監査委員から総括的所見がありました。

その後、認定第1号、平成21年度美唄市一般会計決算認定の件に対する質疑に入りま

した。

以下、その主なものについて申し上げます。

まず初めに、第1款議会費、第2款総務費にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

初めに、秘書交際事務について、前年度の決算と比べて80万強増えており、予算から見ても100万程度増えているが、その内訳について、との質疑に対し、備品購入費の弔旗を3基、92万9,250円で購入したのが一番大きな要因。そのほか、当初予算で組んでいなかった旅費等について、増になった。との答弁。

次に、行政情報化運用事業について、電子申請に関して21項目の電子申請を行っているということだが、電子申請のあり方についての見解、また、美唄市の現状について、との質疑に対し、平成19年度からスタートし、昨年場合は実際の手続きについてはなかった。電子申請は自宅あるいは会社等のパソコンから、インターネット回線を通して、市役所で必要な手続きを行えるという内容で、使用するパソコンにICカードを読み取る機器を接続していただくことが必要となっており、加えて、個人の確認が必要なものについては、公的個人認証手続きというものも必要になる。また、手数料等の支払いが必要なものについては、電子申請を行った上で窓口に来ていただき、決裁していただくという手続きとなっており、実際使用する場合、多少煩雑な部分もあり、利用がなかったのかなというふうに考えている。

ただ、国においても電子政府の推進、地方においても電子自治体の推進ということが、

今後の大きなテーマなので、電子申請の必要性については、今後の情報化社会において必要なものという認識を持っている。

今後、技術的に利用しやすい環境づくりに向けて、さらに検討していきたい。との答弁。

次に、グループ制についての仕事の効率の面での評価と、グループ制の機能の状況についての大きな考え方について、また、管理者の側から見て、意図したとおりに機能するということになるのか、今の組織機構について、どういう評価をされているか、との質疑に対し、平成18年から執行含め取り組んできており、22年4月現在で11の課にグループ制を導入している状況。職員数を削減していく中で、協力体制をとって効率的に事務を進めるということで実施している。その効果については、その職場、職場によるが、一定の効果が出ているものと判断している。

事務事業の効率化、連携をとりやすいという事で始めてきたが、実際問題、部署によっては、いろいろ効果が上がったもの、あるいはまだ課題を残すもの等々あり、今後については、それらの部、課とのヒアリングを行いながら、もっともグループ制になじむような体制、組織に努めていきたいと考えている。

また、昨年、庁内の中に美唄市行政組織に関する庁内検討委員会を策定しており、その中で職場環境含めて、組織のあり方については検討してきている。との答弁。

次に、人事管理の部分について、定期健康診断受診者が322人で、うち要精密検査、要治療が175人で、非常に高い比率だと思う。また、メンタルヘルスケアの部分が5件というのは、いろいろ聞こえてくる話からす

ると非常に少ない感じがするが、その辺をどんなふうに見ているのか。また、定期健診の受診率について、との質疑に対し、要検査、要治療等は高血圧や肥満等の場合にも、そういう指示が出るが、やはり高いと認識している。メンタルヘルスの関係は、専門の主治医になかなか相談に行きづらいのかなととらえている。

健診については、市の費用で実施している健診で、専門職の専門の健診、定期健診等含め455人が健診を受けている。定期健康診断については、全職員対象としており322人ということで、21年度受診率については100%ということになっている。との答弁。

次に、耐震改修促進計画策定事業の中で、地震防災マップ、揺れやすさマップ、地域の危険度マップの作成とあるが、これは既に出てきているのか、との質疑に対し、地震防災マップの作成については、7月1日から7月30日までにパブリックコメントを行い、市民の皆さんから意見を伺ったところであり、美唄市耐震改修促進計画素案ができたところであることから、その概要版に地震防災マップを明示したものを考え、メロディー11月号に間に合うよう準備をしているところである。との答弁がありました。

次に、第3款民生費、第4款衛生費にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

初めに、各種健康診査受診状況について、昨年の数字に比べると、受診率が全部下がっているが、その理由について、また、実際の受診者数について、との質疑に対し、市町村によって算定の仕方がばらばらで、なかなか

近隣との比較、全国的な比較等が難しいという事から、21年度から算定の仕方を変えており、分母が大きくなったため、前年度と比較して受診率が下がっている。

実際の受診者数は、胃がん検診では、20年度1,030人、21年度969人で、61名の減、肺がん検診では、20年度1,040人、21年度972人で、68名の減、大腸がん検診は、20年度1,015人、21年度955人で、60名の減となっている。

また、乳がん・子宮がん検診については、昨年度から女性特有のがん検診ということで、無料クーポン券を利用した検診が始まり、それまでは、普通一般の乳がん検診・子宮がん検診については、生年の偶数・奇数によって隔年で受診していただく2年に1回の受診となっており、単純に比較はできないが、乳がん検診については、20年度が488人、21年度が686人、子宮がん検診については、20年度が547人、21年度が667人になっており、乳がん検診については、前年度より198名の増、子宮がん検診については、前年度より120名の増、そのような結果になっている。との答弁。

次に、恵風園の入所状況について、との質疑に対し、平成22年3月31日現在で、入所者数77名、平成21年3月31日現在で入所者数90名、となっている。との答弁。

次に、生活保護受給者の5年間の推移について。また、最近の生活保護を申請されている人達の状況について、との質疑に対し、平成17年度、537世帯、759人、25.9パーミル、18年度、576世帯、804人、28.0パーミル、19年度、608世

帯、849人、30.4パーミル、20年度、613世帯、836人、30.7パーミル、21年度、624世帯、850人、31.8パーミルになっている。

また、保護の申請状況については、高齢世代、障がいを持っている方、年金未払いの方、医療費高騰によって支払えなくなった方、中には若年層で早期結婚、早期離婚という事で、保護相談に来られて、そのまま受給される方などがいる。ただ、高齢化という部分でいくと、やはり高齢世帯が一番多くなってきているという現象になっている。との答弁。

次に、応急生活資金貸付事業にかかる資金のあり方の状況について、との質疑に対し、

生活の状況が非常に苦しく、生活資金として不足の生じる方が、応急生活資金として借り入れられているのがほとんどである。との答弁。

次に、家庭児童相談事業について、美唄市における児童虐待の実態について、また、虐待に対する美唄市の予防体制と、虐待に対する追跡調査はしているのか、との質疑に対し、21年度は21件の養育相談があり、その中で虐待が疑われるものが8件あった。いずれも疑いということで児童相談所に報告し、その内容として、ネグレクトの疑いが2件、身体的な虐待が5件、性的虐待が1件であった。

虐待の予防に関しては、美唄市では、見守りとしては各町内会、すきやき隊、青少年育成協議会など、いろんな方が目配りをしており、各地域等との連携を密にしながら予防体制を作っていきたいと考えている。

また、児童虐待には防止法があり、これについては役割分担が決まっている。基本的に

は道の児童相談所に専門職が置かれた中での対応がされ、市ではなるべく早く気づいた時点で通報するのが第1となっており、そうした連携をしながら、市民に対しては、児童相談所と同じような支援の意識を持ちながら対応していきたい、との答弁がありました。

次に、第5款労働費、第6款農林費にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

初めに、求職者等職業能力開発支援事業について、職業講習受講者45人中から、就業につながったケースはどのくらいあるのか。との質疑に対し、平成19年度までは受講者に対して、その後のアンケート調査を行っていたが、回収率が3分の1以下と低いことから、20年度以降は廃止したことに伴い、その後の動向については把握できていない状況となっている。との答弁。

次に、季節労働者通年雇用促進支援事業について、21年度の実績がゼロ社5人となっているが、これはどういうことか。との質疑に対し、通年雇用化の促進協議会に登録している会員を対象に、地元の事業所に就職された方が、事業所としてはゼロ社で、市外の方に就職されたという情報の件数が5人となっている。との答弁。

次に、勤労者生活資金貸付事業について、単年度実績がゼロとなっているが、PRはどのようになされているのか。との質疑に対し、

例年、5月と11月に広報誌に記事を掲載、また、取扱金融機関の岩見沢労働金庫にもPRの協力をいただいている。との答弁。

次に、アンテナショップに新規雇用3名となっているが、現在も継続して働いているの

か。また、継続していれば仕事にも慣れ、お店の印象も良くしていくことにも繋がると思うが、その点の評価について、との質疑に対し、アンテナショップの新規雇用3名については、現在も継続して雇用となっている。また、新規雇用の3名については、商品知識も豊富で、出店者との調整なども円滑に行っていることから、今後も引き続き継続を前提に考えている。との答弁。

次に、アンテナショップの運営状況と9カ月間の入り込み客数及び最大月と最低月の人数は。

また、出店者の手数料で看板を購入しているが、看板の費用は、との質疑に対し、

7月8日から約9カ月間、当初の売り上げ目標1,500万円に対し、1,634万5,000円の売り上げになった。内容については主に加工品で、75%を占めている。

冬季間の野菜など商品の安定的な確保という課題は残っているが、21年度の事業としては、順調に終了できたと考えている。

入り込み客数については、レシートの発行枚数での確認になるが、1万8,828名、最大は8月の2,701名、最低は2月の736名となっている。

また、看板については、1基、2万7,000円で3基設置している。との答弁。

次に、グリーン・ツーリズム農家民泊支援事業について、支援の内容について。

また、グリーンツーリズムガイドの配布先について、との質疑に対し、旅館業の経営許可を受けるための、消火器、火災報知機、カーテンの防災加工、灯油タンク等の改修及びこれらに係る申請手数料等の支援をしている。

また、グリーンツーリズムガイドについて、冊子化したものは100冊で、編集したデータをホームページから閲覧できる。

配布先は、グリーン・ツーリズム研究会、受入農家、そらちでい〜ねの関係、旅行会社、受け入れ関連の学校になっている。との答弁。

次に、農業体験の受入者数、受入農家戸数、また、空知全体のネットワークの中での、美唄市の位置づけと今後の推移について、との質疑に対し、修学旅行生等の受け入れについては、学校数で22校、生徒数は523人。そのうち、宿泊を伴う受け入れについては、14校、285人となっている。受入農家数は登録農家数40戸のうち28戸で、受入母体のそらちでい〜ねの受入総数が4,689人なので、全体の1割以上を美唄で受け入れた形になっている。

今後の推移については、21年度が4,689人、今年度の予定人数は5,100強になっており、今後こういう形で増えていくのではないかと考えている。との答弁。

次に、地域ICTの利活用モデル事業で、地域資源のデータベース化総数とあるが、どういう関係のものが主に入っているのか、との質疑に対し、美唄の観光情報や、地域資源情報が入っており、アルテピアッツァ美唄、宮島沼、また、そこで行われている事業の内容や、インタビュー記事など。そのほか、こだわりの農産物の生産者のインタビュー記事、美唄の特産品、やきとり、とりめしの歴史や、かかわっている人のインタビュー記事などが入っている。との答弁がありました。

次に、第7款商工費、第8款土木費にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し

上げます。

初めに、市内消費拡大促進事業にかかる、美唄商品券発行事業の成果と今後の課題について。

また、利用された業種の傾向と、今後も、地元業者を利用した市民の購買力を上げるために、市の負担だけではなく商工会議所もある程度負担分を出して売り上げを5,000万から1億にするような考え方は無いのか、との質疑に対し、成果としては販売総額が5,000万円で、利用できる可能額が6,025万円であり、4月11日から9月30日までの期間で、99.54%、6,000万円ぐらいが地元で消費されたと受け止めている。

また、今後の課題としては、利用できる加盟店の拡大ということで、当初165店舗ぐらいの加盟であったが、商業者関係の加盟率からすると60数%にとどまっており、市外から来られている商業者のところでは利用できないのが今の実態であることから、幅広く利用できる場所作りが当面の課題と受け止めている。

また、利用された業種については、農協が約43%、衣料品関係が5%、残りは1%前後が非常に多くなっている。

今後も市内の購買力を上げるために、会議所など商業者の代表の方々と協議を重ねながら、こういった形で継続できるのか、検討協議をしながら方向性を見出していきたい。との答弁。

次に、公営住宅改善事業で、市営住宅への火災警報器の設置について、今年度以降残っている団地があるのか。また、平成23年度で公営住宅は網羅されるのか、との質疑に対

し、管理戸数1,052戸のうち、改正前の条例に基づき、新築時に既に設置済みが283戸、残りについては、この度の改正で設置された住宅が、平成21年度で295戸、平成22年度238戸、平成23年度236戸を予定している。ただし、南美唄団地、東明中央団地、日東団地、いなほ団地については、今現在36戸の空き家があり、若干入居率も低いことから、空き家については、入居が決まった時点で設置するよう考えており、平成23年度で全ての団地の火災警報機設置を予定している。との答弁。

次に、まちなか交流広場管理運営事業について、平成21年度にイベントを2回開催しているが、その内容について、との質疑に対し、1回目はメンタルヘルスの病院の方が、患者さんのためにとということで、流しそうめんを実施し、2回目は、秋祭りに神社の神輿回しの場所として1回カウントしている。との答弁。

次に、交流拠点施設ゆ～りん館の過去3年間の利用者数、スキー場の利用者増について、どんな分析をしているのか、との質疑に対し、ゆ～りん館の入館者数について、平成19年度25万0,340人、平成20年度23万5,831人、平成21年度24万0,796人となっている。

スキー場については、毎年の利用増に向けての営業努力もしていただいているが、平成21年度は20年度と比べて雪が多く、13日多く営業していることが利用増の主な要因であると考えている。との答弁がありました。

次に、第9款消防費、第10款教育費にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申

上げます。

初めに、小中学校の教材購入事業について、交付税参入に対する図書費の割合は。

また、学校図書購入について、学校別の決算額は、との質疑に対し、交付税参入に対する図書費の割合は、平成21年度において、予算措置されている部分では、小学校21.2%、中学校11.9%。

また、小中学校の図書購入決算額と寄贈を含めた購入冊数は中央小学校、10万6,282円、246冊、東小学校、14万7,316円、98冊、峰延小学校、6万2,942円、146冊、南美唄小学校6万0,585円、47冊、東栄小学校、4万9,990円、57冊、茶志内小学校、4万0,782円、57冊、西美唄小学校、4万5,000円、36冊、美唄中学校、9万3,508円、69冊、峰延中学校、3万円、16冊、南美唄中学校、3万4,632円、58冊、東中学校、9万5,559円、48冊となっている。との答弁。

次に、標準学力検査事業について、21年度の結果で明らかになった問題点や課題について、改善策等の対策は行っているのか、との質疑に対し、各学校において、この結果を十分に把握し、それぞれこのポイントで授業を進めていくか、研修を十分に積んでおり、保護者の方にも具体的なデータを示しながら、学校でどこに力を入れているかという説明をしている。また、最近は夏休み・冬休みを使い、それぞれの学校で生徒に対して具体的な指導を行う時間も作るなど、生徒指導の充実に努めている。

今後も、具体的な部分について、ポイント

を絞りながら指導体制について検討していきたいと考えている。との答弁。

次に、消防組織の広域化について、どんな議論がなされ、どんな形になって地方で具体化されるのか、今後の見通しについて、との質疑に対し、現在、道で出された素案に基づき、南空知圏の5消防本部で広域化についての事務研究会を発足させ、担当部会を設けた中で、現在の消防の現状と課題を精査し、広域化に向けてどのような形がよいのか検討している。

なお、広域化の期限は、平成24年度末までとなっている。との答弁。

次に、火災予防推進事業における独居老人家庭への査察実施について、どのような実施状況なのか。

また、積み残しの349件についてはどのようなになっているのか、との質疑に対し、

独居老人の立ち入り検査については、春と秋の火災予防運動期間中に立ち入り検査を実施している。

また、独居老人の人数の差については、昨年10月の立ち入り検査の際、新型インフルエンザの発生で、12月まで行えなかった経過があったための差となっている。との答弁。

次に、学校支援地域本部事業にかかる事業の内容について、との質疑に対し、この事業は国の委託を受けて平成20年度から実施しているものであり、地域や地域の人材を活用して学校支援を行い、学校現場に対してこどもと向き合う時間をしっかり作ってもらうことを大きな目的とし、21年度では、全市の実行委員会を立ち上げ、中学校区を単位として、旧茶志内・西美唄中を含めた6地区に区

分して、6地区協議会を設置し活動展開を図ることとしたところだが、具体的な地区協議会としての活動に結びついた地区は3ヶ所となっている。

また、各小中学校等にボランティアとして活動してもらえよう、ボランティアの養成講座、レクリエーション講座を1回、本の読み聞かせ養成講座を1回、合計2回の養成講座を実施したところである。との答弁がありました。

また、第11款災害復旧費ないし第15款予備費に関して、質疑はありませんでした。

次に、歳入全般にかかる質疑・答弁について申し上げます。

奨学資金貸付金収入について、収入未済額及び未納者の所在不明の状況について、また、保証人はつけているのか、との質疑に対し、

平成19年度、271万5,346円、20年度、297万7,700円、21年度、335万7,600円と推移している。21年度の内訳は、現年に対する未納額、101万7,200円、16件、過年度分が、234万0,400円、22件、となっている。

また、所在不明については、何件か発生しており、法律的に手立てが講じられない状況になっており、追跡調査することが難しい状況になっている。

保証人については、連帯保証人として2名、親及びそのほかの者をつけていただいているが、年数が経過した部分については、連帯保証人についても、亡くなっていたり、所在が変わっていたりという状況もある。との答弁。

次に、ふるさと納税について、いくら寄附

があったのか。また、今後の対応策について、との質疑に対し、寄附金額は、263万7,000円、件数が27件、なお、平成20年については、10月から開始して3月までで、24件、164万円の寄附金があった。

目的別では、地域振興の寄附金、14件、133万7,000円、福祉事業を応援で、4件、60万円、アルテピアッツァ美唄整備事業を応援で、3件、14万円、農業振興事業を応援で、1件、3万円、その他、子どもの関連、恵祥園関係の個別ケアの推進、中心市街地活性化への応援、救急医療に対する応援、宮島沼に対する応援といった部分で、5件、53万円になっている。

また、今後のPRの方法としては、ホームページだけでなく、広報誌も通じてPRしているが、ポスター、パンフレットなどを活用しながら、さらにPRに努めていきたいと考えている。との答弁がありました。

次に、認定第2号平成21年度美唄市民バス会計決算認定の件にかかる質疑・答弁の主なものについて申し上げます。

東栄小学校が東小学校に統合されてくると、バスの利用がされると思うが、小学生の利用に見合ったバス停の設置はされるのか、との質疑に対し、教育委員会から事前に話が来ており、朝の通学時は旭通りのバス停、帰りは美唄富良野線のバス停を使っていただくということで検討している。との答弁がありました。

次に、認定第3号平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

国保税については、災害や病気等で減免制

度があるが、医療費の患者負担について減免制度がどのようになっているのか、との質疑に対し、美唄市の国保においては、減免及び徴収猶予の取り扱い要綱というものを持っており、項目については震災、風水害、火災及び冷害、不作、不量で収入が減少したときの、2項目について減免できる。との答弁がありました。

次に、認定第5号平成21年度美唄市下水道会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

下水道だけの問題ではなく、他の特別会計も含め、納めることができる方に積極的な納入の働きかけや、現状、支払うことが難しいという場合は、ご相談くださいという働きかけが必要ではないかと思うが、市全体としての考え方は、との質疑に対し、それぞれ各原課において、滞納対策は十分に講じているが、どういった方法で市民の皆様にお知らせをしたり、相談の内容等の受け付け方法の周知などの問題もあるので、それぞれ各部と十分に連携を図りながら、その辺の方法については検討させていただきたい。との答弁がありました。

次に、認定第6号平成21年度美唄市介護保険会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

介護型の療養ベッドが平成23年度末で廃止されるが、美唄において療養病床は、どのような状況にあるのか、との質疑に対し、市内に介護療養型医療施設として花田病院、定員60人、しろした病院、定員59名の2つの施設があり、23年末の療養病床の廃止については、現在、国において廃止方針につ

いての見直しを検討しているということで、まだ正式にどのように見直されるか決まっておきませんので、今後推移を見守っていきたい。との答弁がありました。

次に、認定第7号平成21年度美唄市介護サービス事業会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

緊急時の対応について、特に夜間の泊まりの状況はどのようになっているのか、との質疑に対し、恵風園、恵祥園については、それぞれ介護職員2名が夜間の対応をしており、看護師については夜間当直はいないが、当番制で担当の看護師が常時携帯を保持しているため、有事の際は指示を仰ぐ形になっている。との答弁がありました。

次に、認定第8号平成21年度美唄市後期高齢者医療会計決算認定の件にかかる質疑・答弁について申し上げます。

保険料未収額の件数と、未納者について、ペナルティーは発生するのか、との質疑に対し、現年賦課分は41件、滞納繰越分は16件、ペナルティーについては、1年以上未納が続くと短期保険証か資格者証が交付されることになる。との答弁がありました。

次に、認定第9号平成21年度市立美唄病院事業会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

患者さんに接する看護師さんたちの働く意欲、人的な質の低下を来たさない事が重要だと思うが、スタッフの質の維持、向上ということで心がけておられる事柄について、との質疑に対し、患者さんと接する機会が一番多い看護師なので、レベルアップの研修に多く

出席させたり、接遇の研修も含めて、院内の研修や、講師を呼んでの研修などの取り組みをした中で、サービスの低下にならないよう努めている。との答弁がありました。

次に、認定第10号平成21年度美唄市水道事業会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

水道の料金の設定について、独居老人の方が多くなってきていることから、基本料金等の見直しをしていくことも必要ではないかと考えるが、考え方について、との質疑に対し、

基本料金の考え方は、各家庭に配水管やメーターなどの設備投資の部分があるため、少量しか使用しなくても基本料金は負担していただく形になっている。基本水量5トンは少量使用者に対して優しい料金設定という形の中で取り進めてきた経緯があり、この形でと考えている。との答弁がありました。

次に、認定第11号平成21年度美唄市工業用水道事業会計決算認定の件にかかる質疑・答弁のうち、主なものについて申し上げます。

取水量、配水量について、12月と1月がほかの月より多いが、この要因について、との質疑に対し、いろんな事業所があるため、工場によっては時期的なもので多く使用されたものと考えている。との答弁がありました。

なお認定第4号平成21年度美唄市老人保健会計決算認定の件、書面審査及び総括質疑に関して質疑はありませんでした。

以上の経過から、認定第1号及び認定第3号についてはご異議がありましたので、起立採決の結果、原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。

また、認定第2号、認定第4号ないし認定第11号については、原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。

本委員会の決定どおり、ご承認いただきませうようお願い申し上げます。報告を終わります。

議長内馬場克康君 これより議案第61号ないし議案第66号の以上6件について、一括質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって一括質疑を終結いたします。

これより一括討論を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって一括討論を終結いたします。

これより一括採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、議案第61号美唄市給与条例の一部改正の件ないし議案第66号美唄市立学校設置条例の一部改正の件の以上6件は、委員長報告のとおり決定されました。

これより議案第67号及び議案第68号の以上2件について、一括質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって一括質疑を終結いたします。

これより一括討論を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって一括討論を終結いたします。

これより一括採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、議案第67号指定管理者の指定の件（美唄市南美唄福祉会館）及び議案第68号美唄市企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正の件の以上2件は、委員長報告のとおり決定されました。

これより議案第69号ないし議案第72号の以上4件について、一括質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

これをもって一括質疑を終結いたします。

これより一括討論を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

これをもって一括討論を終結いたします。

これより一括採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第69号平成22年度美唄市一般会計補正予算（第4号）ないし議案第72号平成22年度美唄市介護保険会計補正予算（第2号）の以上4件は、委員長報告のとおり決定されました。

これより認定第1号について質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

これをもって質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

1番、吉岡文子議員。

1番吉岡文子議員（登壇） ただいま議題となりました認定第1号平成21年度美唄市一般会計決算認定の件につきまして、日本共産党議員団を代表して、討論に参加いたします。私の立場は認定に反対です。以下、その

理由と若干の意見を申し述べます。

平成21年度における決算は、歳入180億7,262万6,389円、歳出177億2,184万9,869円、差し引き3億5,077万6,520円の黒字となっています。

2009年の政府予算は、麻生首相のもとで編成されたものでした。2008年秋のアメリカのリーマンショック以降、日本経済は、かつて経験したことの無いスピードで悪化しました。派遣切りで食と住居を同時に失う労働者が急増し、資金繰りの悪化や仕事の減少で中小業者が苦しめられるなど、国民全体が悲鳴を上げていました。麻生政権が編成した政府予算は、日本経済の脆弱さの根本にある大企業中心アメリカ言いなりの経済路線にしがみつき、そのツケを消費税増税で国民に押しつけるレールを敷こうとしました。

その中、2009年8月の衆議院議員選挙で民主党が大勝し、政権交代となり、国の行方が混沌とする中、平成21年度の予算執行に携わった関係職員の皆さんには言葉に言い尽くせない御苦勞があったことと思います。改めて敬意を表します。

歳入の状況ですが、地方交付税が前年より増額となっておりますが、自主財源の比率は3割弱で、依然として財政運営は厳しいとしか言いようがありません。このような状況のもとで、住民の福祉の向上という自治体としての使命を果たしているか。市民の生活実態や市内経済状況に即して施策展開がなされてきたかが問われるものと考えます。

燃料の高騰が冬期間の市民生活を左右するという状況のもと、福祉灯油の実施は、市民にとって体だけでなく、心まで温める事業と

なりました。最低限の生活を強いられている生活保護世帯への福祉灯油支給が実施されなかった点は、厳しく指摘しておかなければなりません。妊婦健診の公費助成拡大や新型インフルエンザへの助成など、住民の福祉、健康を守るための方策を講じられたことは評価できると考えます。民間個人住宅へのバリアフリーや防寒の改修制度は高齢化の進む本市にあって、高齢者が地域で安心して住み続けられる支えとなり、市内関連業者へも波及効果があらわれております。しかしながら、近隣他市に比べると適用が限られており、今後適用の拡大が求められると考えます。小中学校の耐震診断、耐震改修が進んだことは子どもたちに安心して学べる環境が保障されたことと評価できると考えます。市民に人権と男女平等の意識の浸透を図るべく、美唄市男女共同参画条例の制定は、昨今の情勢のもと、大きな一步を踏み出したと言えます。しかしながら、生活環境を見るならば、道路側溝整備などは厳しい財政状況の中、大きく立ち遅れており、市民生活に不都合を来している地域も見受けられます。旧中央駐車場の不動産評価の大幅な減額は、市民の中に行政に対して大きな不信を巻き起こしました。本市の基幹産業である農業は、米価の下落や気候不順により経営が厳しく、農業者の高齢化も深刻化しており、将来の本市の農業に暗い影を落としております。商業者も依然として厳しい経営状況に変わりはありません。

決算の内容は、美唄市の極めて厳しい財政状況を反映したのですが、全体を見れば、結果として、基本的には国の進める路線に従った内容となっております。高齢化や貧困化、

グローバル経済の影響を受け、不安を感じている市民に必要な福祉施策こそ充実させるべきであることを申し上げ、平成21年度美唄市一般会計決算認定について、認定に反対の立場からの討論といたします。

議長内馬場克康君 5番、高橋幹夫議員。

5番高橋幹夫議員（登壇） ただいま議題となりました認定第1号平成21年度美唄市一般会計決算認定の件につきまして、討論に参加いたします。私は認定することに賛成であります。以下、その理由と若干の意見を申し上げます。

平成21年度一般会計の決算は、歳入総額180億7,262万6,389円に対し、歳出総額177億2,184万9,869円で、歳入歳出差引額は、3億5,077万6,520円となり、翌年度に繰り越すべき財源3,043万9,000円を除く実質収支で3億2,033万7,520円の黒字決算となりました。財政健全化計画における具体的項目の取り組みのスタートの年としては、まず一安心できる結果となりました。

平成21年度は極めて厳しい社会情勢の中にあつて、国の数次にわたる経済対策等により地域活性化に向けた取り組みや、雇用対策、さらには安全・安心なまちづくりに向けた取り組みに積極的に対応するとともに、市民の皆さんの協力のもと、市長を初め、市職員が経費の節減や人件費の抑制などを行いながら、効率的な行財政運営に努められたことを評価するものであります。なお、埋立処分地や道営住宅関連の事務の執行においては、さまざまな課題が惹起したところであり、さまざまな検証を踏まえ、事務執行体制の改善が強く

望まれるものであります。また、地方公共団体の財政の健全化に関する法律による健全化判断比率は一般会計の実質収支の黒字額などから財政健全化計画よりも若干好転するとともに、早期健全化団体の基準をクリアしているところではあります。市立病院の不良債務や市債残高が多額であることなどから、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率はまだ相当高い水準にあり、財政の健全化に向けた取り組みを着実に進めることが必要であります。

歳入を見ますと、自主財源の中核である市税収入が対前年度比約4,200万円の減収となっている一方で、収納率は少し改善されており、今後においても市税等のさらなる収納対策を望むものであります。また、地方交付税においては、対前年度比約1億2,000万円増加するなど、一般財源が昨年引き続き増加しているところであり、地方への財源対策が改善されつつあります。

賛成理由については、主な施策の取り組みから申し上げますと、平成21年度は21世紀まちづくりプラン後期基本計画の4年次目として、福祉、環境、交流、経済振興並びに安全・安心な暮らしの確保を重点とした施策に取り組まれるとともに、国の経済対策等に応じ、各種事業に積極的に対応するなど、その効果が期待されるものであります。

初めに、やさしさと健康のまちづくりについては、道の地域子育て力パワーアップモデルに選定され、地域が一体となって子育てを支援する機運が高まったほか、地域の皆さんと協働による健康づくりや新型インフルエンザへの対応、妊産婦健診の公費助成拡大など、

各種検診の受診率の向上に取り組まれました。また、老朽化が進む各地域福祉会館の整備改修を行ったほか、第2期地域福祉計画に基づき、地域の自主的・主体的な取り組みを支援するなど、地域福祉の向上に取り組まれました。市立美唄病院については、財政健全化法に基づき、個別外部監査を実施したほか、市立美唄病院経営健全化計画を策定し、人工透析患者の受け入れの拡充のほか、美唄医師会との協力のもとで緊急医療体制を維持するなど、地域医療体制の確保と、経営の効率化に努められました。

次に、快適な暮らしを実現するまちづくりであります。都市基盤の整備では、地域から要望の多い道路、側溝などの整備に努められたほか、公園については、住民が参加する公園の管理清掃活動を推進されました。また、住宅については、既存の公営住宅の環境改善のほか、民間住宅のバリアフリー改善等に対する支援制度を見直し、利用の拡大を図られました。また、市民生活の安全確保に向けて、美唄市地域コミュニティ安全条例に基づき、地域と協働して防犯活動や交通安全運動などを推進されました。

次に、人と自然が調和したまちづくりであります。宮島沼水鳥湿地センターを拠点として、環境学習会やボランティア学習会など開催し、環境保全の必要性をPRしたほか、事業系ごみのごみ処理手数料については、排出量に応じた費用負担となるよう改正するなど、ごみの適正処理や減量化に向けて取り組まれました。

次に、豊かで活力ある産業が広がるまちづくりであります。農業においては、農家民

泊許可の取得を支援し、修学旅行先の農業体験受け入れなど、消費者と生産者との交流推進に努められました。また、精米施設やもみ殻格納庫、小麦乾燥調製施設、大豆乾燥調製施設の整備を進めたほか、農村環境の保全を図るため、農地・水・環境保全向上対策事業を引き続き支援しました。商工業におきましては、まちなか交流広場を整備したほか、市民ふれあいサロンを開設し、中心市街地の活性化に取り組みました。また、プレミアム商品券の発行を支援し、市内消費の拡大を推進しました。さらに、地域資源の有効活用をテーマとしたビジネス交流会を開催し、起業家支援に取り組みました。雇用においては、緊急雇用創出事業やふるさと雇用再生特別対策推進事業を活用し、求職者に対する生活支援に努められました。

次に、文化と交流のまちづくりであります。が、学校教育においては、小中学校の耐震化を着手するとともに、小学校コンピュータ機器の更新や、校内LANの整備、地上波デジタルテレビの整備を行うなど、教育環境の整備に努められました。交流においては、農商工連携の考えのもとで地域ICTの推進を初め、観光交流の推進を図るため、アンテナショップPiPaの開設や美唄の魅力まるごとフェアの開催、モニターツアーの実施など、地域経済活性化に向けた取り組みを推進いたしました。

以上のことから、賛成にする次第でございます。

最後に財政健全化の取り組みは平成27年度までの長期にわたり、また、新たな総合計画の策定作業を進めているところであります

が、今後も自立と協働を理念に市長のリーダーシップの下で職員幹部の指導力をさらに発揮していただき、職員が一丸となって財政の健全化と地域の活性化に向けて、取り組まれますことをご期待申し上げ、私の討論といたします。

議長内馬場克康君 これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

ご異議がありますので、起立により採決いたします。

本件に対する委員長報告は認定であります。

本件は、委員長報告のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

起立多数であります。

よって、認定第1号平成21年度美唄市一般会計決算認定の件は、委員長報告のとおり決定されました。

これより認定第2号について質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって質疑を終結いたします。これより討論を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって討論を終結いたします。これより採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、認定第2号平成21年度美唄市民バス会計決算認定の件は、委員長報告のとおり決定されました。

これより認定第3号について質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

1番、吉岡文子議員。

1番吉岡文子議員(登壇) ただいま議題となりました認定第3号平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件につきまして、討論に参加いたします。私の立場は認定に反対の立場です。以下、その理由と若干の意見を申し述べます。

国民健康保険は、健康保険や共済保険などの被用者保険に加入していない労働者、農林水産業者、自営業者、退職者や無職の人などを対象にした我が国最大の医療保険制度です。国民健康保険法には、社会保障と国民保険の向上に寄与すると書かれており、国の責任で国民に医療を保障することを明記しています。しかし、自己責任と受益者負担の双方を求める政府与党の構造改革の中で、国民健康保険制度の本来の目的がゆがめられてきました。一向に光の見えない雇用状況のもとで高過ぎて支払い能力を超えた保険税、資格証明書交付世帯の急増、国民皆保険の理念は崩壊の危機に瀕していると言わざるを得ない状況です。

平成21年度の決算の内容は、歳入35億9,096万0,808円、歳出35億8,934万2,931円で、差し引き161万7,877円の黒字となっています。しかし一般会計から2億6,400万円余の繰入金をもってしてのことで、美唄市の国民健康保険会計は依然厳しい状況となっています。美唄市の国民健康保険の実態は、国保加入者世

帯数は4,723世帯、被保険者数は8,107人で世帯全体の4割弱、人口全体の3割以上を占めています。そのもとで資格証明書交付世帯は136世帯で、前年度比7世帯の減、短期証交付世帯は334世帯、前年度比59世帯の減という状況です。

全国的に保険証取り上げで治療が手遅れになるなどの調査が明らかになり、政府も、生活に困窮して医療を必要とする場合には、滞納世帯に交付証を発行する事や、失業によって国保加入となった人の国保料減免に国が財政支援を行うこと、子どもの無保険問題の対策として、滞納世帯であっても、子どもには無条件に短期証を発行することなどの対策がとられました。

本市においては、納税相談などでは分割納付や他の制度利用を進めるなどの対応が続けられていることは承知しておりますが、払いたくても払えない生活水準をはるかに超えた過重な保険税負担が滞納の発生につながっております。

歴代自民党政権は1984年の国保法改悪を皮切りに、国保への国庫負担を削減し続け、国保を深刻な財政難に陥らせました。年金生活者や失業者などが加入者の過半数を占める国保は、もともと分厚い国庫負担なしには成り立たない医療制度です。しかも、この間、大企業の雇用破壊で、失業者や非正規労働者が大量に国保に流入し、規制緩和によって自営業者や農業者の経営難が加速するなどの国保の貧困化が急速に進行しています。

ところが、1984年から2006年の間に市町村国保の総収入に占める国庫支出金の割合は、49.8%から27.1%へとほぼ

半減し、一人当たりの国保税は3万9,000円から8万2,000円と倍増しました。国保税を誰もが払える水準に引き下げ、安心できる医療制度に改革するには、国庫負担を元に戻すことが必要です。

そのような中で、美唄市において、地域の医療制度としての国民健康保険制度を守ることは、住民の福祉の増進を役割とする自治体の長としての市長の重大な責務であると考えます。桜井市長は国に対しては国庫負担を元の45%に戻すことや、医療制度の見直しを求めて声を上げつつ、市民に対しては、国保税引き下げなどを早急に検討して高く払えない国保税滞納による資格証明書発行を中止することが求められております。

本会計の決算内容は、政権交代した中での予算執行に当たられた職員の皆さんの御努力には敬意を表しますが、結果として国の国民いじめの国民健康保険行政に従ったものであり、容認しがたいものです。

以上申し上げまして、平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件につきまして、認定に反対の立場からの討論を終わります。

議長内馬場克康君 3番、五十嵐聡議員。

3番五十嵐聡議員（登壇） ただいま議題となりました認定第3号平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件につきまして、討論に参加させていただきます。結論から申し上げます。私の立場は原案に賛成であります。以下、その理由と若干の意見を述べさせていただきます。

国民健康保険は、住民に身近な地域保険として運営され、最近では、高齢者や低所得者の加入が増加し、構造的な問題を抱え、長期的

な景気後退に伴う経済状況悪化の中、保険税の収納率は伸び悩んでおり、急速な高齢化や医療費の増嵩により保険財政は極めて厳しい状況に置かれております。

そのような状況の中、本市の平成21年度決算状況は実質収支額で161万8,000円の黒字となっており、国民健康保険支払準備基金につきましても、7,000万円の取り崩しで済み、今後の運営に備えることができたと思われれます。

さて、本市国民健康保険は、低所得者や4割近くを占める65歳以上の被保険者を抱えている状況にあり、また、医療費の増加も続いていることから、今後一層の厳しさを増していくものと考えられます。このことから、特定健康診査等、検診の事業を積極的に進め、健康に対する意識を高めるとともに、早期発見、早期治療につなげることが医療費の抑制に結びつくものと思っております。

なお、医療制度については、昨年の新政権の施策により、高齢者医療の現行制度の廃止が予定され、それにかわる新たな制度の検討が現在行われております。これによりますと、市町村国保は大きくかわることとなり、事業運営も大きな変革が予想されております。さまざまな情報を的確に把握しながら、対応していくこととなるでしょうが、まずは今現在運営している事業の安定を保ち、被保険者に対して健全な国保事業状況を示すことができますよう、適切に事業運営されることを御期待を申し上げ、私の討論を終わります。

議長内馬場克康君 これをもって討論を終結いたします。

これより採決をいたします。

ご異議がありますので、起立により採決いたします。

本件に対する委員長報告は、認定であります。

本件は、委員長報告のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

起立多数であります。

よって、認定第3号平成21年度美唄市国民健康保険会計決算認定の件は、委員長報告のとおり決定されました。

これより認定第4号ないし認定第11号の以上8件について、一括質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって一括質疑を終結いたします。

これより一括討論を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもって一括討論を終結いたします。

これより一括採決いたします。

本件は、委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、認定第4号平成21年度美唄市老人保健会計決算認定の件ないし認定第11号平成21年度美唄市工業用水道事業会計決算認定の件の以上8件は、委員長報告のとおり決定されました。

議長内馬場克康君 次に日程の第3、議案第73号美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件及び日程の第4、議案第74号美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件の以上2件を一括議題といたします。

本件に関し提案理由の説明を求めます。

市長職務代理者副市長。

市長職務代理者副市長板東知文君(登壇)ただいま上程されました各案件について、提案理由をご説明申し上げます。

初めに、議案第73号美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件であります。

本件は三宅雅登委員が11月10日をもって任期満了となりますので、本市固定資産評価審査委員会委員として引き続き三宅雅登氏を選任いたしたく、地方税法の規定により、議会の同意を求めます。

次は、議案第74号美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件であります。

本件は三浦洋嗣委員が11月10日をもって任期満了となりますので、本市固定資産評価審査委員会委員として引き続き三浦洋嗣氏を選任いたしたく、地方税法の規定により、議会の同意を求めます。

よろしくご審議をお願いいたします。

議長内馬場克康君 お諮りいたします。

ただいま提案理由の説明ありました議案第73号については、原案のとおりこれに同意することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、議案第73号美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件は、原案のとおり同意することに決定されました。

お諮りいたします。

ただいま提案理由の説明ありました議案第74号については原案のとおりこれに同意することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、議案第74号美唄市固定資産評価審査委員会委員選任の件は、原案のとおり同意することに決定されました。

議長内馬場克康君 次に日程の第5、意見書案第14号道路の整備に関する意見書ないし日程の第9、意見書案第18号B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書の以上5件を一括議題といたします。

本件に関し、それぞれ提案理由の説明を求めます。

まず、意見書案第14号ないし意見書案第16号の以上3件について、7番、長谷川吉春議員。

7番長谷川吉春議員（登壇） ただいま議題となりました、意見書案第14号ないし第16号の以上3件につきまして、一括して案文を朗読し、提案理由の説明にかえさせていただきます。

道路の整備に関する意見書

北海道は、全国の22%を占める広大な面積に179の市町村からなる広域分散型社会を形成し、道民の移動や物資の輸送の大半を自動車交通に依存しており、道路は道民生活と経済・社会活動を支える重要な社会基盤となっておりますが、冬期の厳しい気象条件に加え多発する交通事故、自然災害時の交通障害や更新時期を迎え老朽化する道路施設など、道路をとりまく課題は多くあります。

また、国土の根幹をなす高規格幹線道路から住民に最も密着した市町村道に至る道路網

の整備は、道民が強く要望しているところであり、特にミッシングリンクをかかえ、全国に比べて大きく立ち後れている高規格幹線道路ネットワークの形成は、圏域間の交流・連携の強化による地域経済の活性化、道民の命に関わる救急搬送や災害対応といった安全で安心な生活を確保する上での重要な課題であります。

本市におきましては、国道12号、道道美唄富良野線、月形大橋の整備促進が、最も重要であると考えております。

こうした中、地方財政は全国的な景気後退とともに、税収が落ち込むなど、さらに厳しさを増しており、今後は、国と地方の適切な役割分担のもと、道路整備に必要な予算を確保するとともに、国が制度を見直す際には、地方の自主性・裁量性を重視した地方にとって自由度の高い制度とすることが重要であります。

このような状況を踏まえ、次の事項について強く要請いたします。

記

- 1 高規格幹線道路ネットワークの早期形成を図るため、整備中区間の早期供用を図るとともに、抜本的見直し区間の未着手区間や基本計画区間などについて早期の事業化を図ること。
- 2 高度成長期に整備され老朽化した道路施設の長寿命化に係る費用に対する支援の拡充を図ること。
- 3 冬期交通における安全性の確保、交通事故対策、自然災害時の交通機能の確保など、地域の暮らしを支える道路の整備及び維持に必要な予算額を確保すること。

4 平成23年度から段階的に実施するとされている一括交付金の制度設計の際には、道路整備に関する地域の様々な課題に対応できるよう制度を充実するとともに必要な予算額を確保すること。

5 事業評価に当たっては、地域からの提案を反映させるなど、救急医療、観光、災害対策など、地域にもたらされる多様な効果を考慮し、総合的な事業評価手法となるよう検討すること。

6 地方の財政負担の軽減に資する地方道路整備臨時貸付金制度の維持・拡充を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月17日

北海道美唄市議会

国民健康保険への国庫負担の増額を求める意見書

今日、国民健康保険に加入している多くの人たちは、国保料(税)の高額負担に耐えかね、受診を抑制する事態が増加しています。

北海道では加入国保世帯数892,201世帯(09年6月1日現在)のうち、滞納世帯が173,515世帯(19.45%)となっています。

美唄市においては加入世帯数4,723世帯のうち滞納世帯が590世帯(12.49%)となっています。

国保料の高負担の要因は、1980年代以降、国民健康保険に対する国庫負担の削減を繰り返してきたことにあります。

全国では、市町村の総収入に対する国庫支出の割合が1980年に59.5%であったものが、2007年には25%まで低下しています。この間、加入者世帯の平均所得が276万円(1990年)から167万円(2007年)へと大きく下がっており、1人当たりの保険料が6万5,284円から8万4,367円と逆に上がっています。このことは被保険者にとって、保険料(税)がもはや負担の限度を超えていることを示しています。

しかも国は、医療費の窓口負担軽減など、福祉医療を実施している市町村国保会計に対する国庫負担を削減する「ペナルティー」を設けています。市町村国保が被る「ペナルティー」に対して、少くない県で支援の廃止、縮小をするなど、「三位一体改革」に伴い、国民健康保険でも、これまで国が果たしてきた役割が都道府県に押しつけられる中で、都道府県が独自に果たしてきた役割が廃止、縮小され、市町村へとしわ寄せされています。

今、国民が安心して医療にかかれる国民健康保険の再生が切実に求められています。

よって、国民健康保険への国庫負担の増額を強く求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月17日

北海道美唄市議会

介護保険料・利用料の軽減制度の確立を求める意見書

介護保険法には「10年を経過した場合において必要な措置を講じる」(附則第4条)と

規定されています。介護保険法が施行されて10年、多くの矛盾と問題点をかかえた介護保険制度のもとで、高齢者・家族も、事業所も、そして地方自治体も困難と苦しみをかかえている実態が明らかとなっています。

中でも、定率1割の利用料、ホテルコスト（食費・居住費）の導入など、「応益負担」原則に基づく過重な利用者負担が、低所得者の高齢者を介護サービスの利用から排除する事態を引き起こしているという事態は極めて深刻です。

介護にかかわる様々な悲劇もあとを絶ちません。

また、介護保険料についても重い負担が家計を圧迫しており、軽減・免除を望む声が多く、独自の軽減策を実施している自治体は9割近くにのぼっています。利用料の独自軽減策を講じている市は4割を超え、食費・居住費の軽減を実施している自治体も少なくありません。

こうした事実は、介護保険料、利用料の負担軽減が極めて強い要望となっていることを示しています。

よって政府は、低所得者に対する介護保険料・利用料負担の軽減策を国の制度として確立するよう強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月17日

北海道美唄市議会

なお、提出先は、それぞれ案文記載のとおりでありますので、原案のとおりご承認いただきますようお願い申し上げます。提案理

由の説明を終わらせていただきます。

議長内馬場克康君 次に意見書案第17号について、11番、土井敏興議員。

11番土井敏興議員（登壇） ただいま議題となりました、意見書案第17号につきまして、案文を朗読し、提案理由の説明にかえさせていただきます。

森林・林業政策の早急かつ確実な推進に関する意見書

近年、森林に対する国民の期待は地球温暖化の防止、国土の保全や水源のかん養はもとより、生物多様性の保全への貢献など多様化するとともに、低炭素社会づくりを進めるため、木質エネルギー利用を含め、木材利用の拡大に対する期待も増大しています。

しかしながら、国内の林業は路網整備や森林施業の集約化の遅れなどから生産性が低く、材価も低迷する中、森林所有者の施業放棄が懸念されるなど、我が国の林業・木材産業は危機的な状況に陥っており、加えて森林・林業の担い手である山村は崩壊の危機に立っています。

こうした厳しい状況を踏まえ、昨年公表された「森林・林業再生プラン」に基づき、国民の期待に応じていくため、今後、森林整備を着実に推進するとともに、森林の有する多面的機能の持続的発揮を図りながら森林資源を適切に活用し、森林・林業・木材産業の活性化による山村の再生を図るため、以下の項目を実現するよう要望いたします。

記

1．地球温暖化防止・森林吸収源対策を推進

するための安定的な財源措置の確保及び森林所有者の植林意欲を高めるための負担軽減措置等による森林経営対策を推進すること。

- 2．水源のかん養など森林の有する公益的機能の重要性を踏まえ、森林の取り扱いに関する所有者の責務を明確化するとともに、大面積皆伐の抑制や伐採後に確実に植林する仕組みを構築すること。
- 3．公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の制定を踏まえ、低炭素社会の実現に着目した公共建築物や住宅建設等における木材利用の促進及び木質バイオマス利用など国産材の利用を拡大すること。
- 4．持続可能な森林・林業の確立に向けて、森林計画の作成や施業の集約化を担う人材及び現場事業の担い手などの育成確保を図るとともに、森林整備に要する経費の定額助成を実施すること。
- 5．国民共有の財産である国有林については、公益的機能の一層の維持増進を図るとともに、森林・林業政策の推進に貢献するため、国による一体的な管理運営体制を確立すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月17日

北海道美唄市議会

なお、提出先は案文記載のとおりでありますので、原案のとおりご承認いただきますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終わらせていただきます。

議長内馬場克康君 次に、意見書案第18

号について、2番、森川明議員。

2番森川明議員（登壇） ただいま議題となりました、意見書案第18号につきまして、案文を朗読し、提案理由の説明にかえさせていただきます。

B型肝炎問題の早期全面解決を 求める意見書

平成18年5月、最高裁判所は、道内のB型肝炎患者の方々が、B型肝炎ウイルスに感染した原因が注射針・筒を連続使用した集団予防接種にあるとして、国の損害賠償を求めた裁判において国の責任を認めました。

その後、道内の多くのB型肝炎患者の方々が国に対し損害賠償を求め提訴していた裁判において、本年3月、札幌地方裁判所は和解勧告を行い、5月に国は勧告を受け入れ協議に応じる方針を決定し、これまで同地裁において和解協議が進められていますが、解決には至っておりません。

よって、国においては、誠実な協議のもと早期に全面解決を図られるよう強く要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月17日

北海道美唄市議会

なお、提出先は案文記載のとおりでありますので、原案のとおりご承認いただきますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終わらせていただきます。

議長内馬場克康君 お諮りいたします。た

だいま提案理由の説明がありました意見書案第14号ないし意見書案第18号の以上5件については、別にご発言もないようですので、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、意見書案第14号道路の整備に関する意見書ないし意見書案第18号B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書の以上5件は、原案のとおり可決されました。

議長内馬場克康君 次に日程の第10、決議案第1号第6期美唄市総合計画調査特別委員会設置に関する決議を議題といたします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

13番、紫藤政則議員。

13番紫藤政則議員(登壇) だいま議題となりました決議案第1号第6期美唄市総合計画調査特別委員会設置に関する決議について、お手元の案文を朗読し、提案理由の説明にかえさせていただきます。

第6期美唄市総合計画調査

特別委員会設置に関する決議

(委員会の設置)

1 本市議会に第6期美唄市総合計画調査特別委員会を設置する。

(設置の目的)

2 本委員会は、本市のまちづくりの基本的な方向を示す第6期美唄市総合計画の策定についての調査を行うことを目的とする。

(調査事項)

3 本委員会の調査事項は次のとおりとする。

(1) 美唄未来交響プラン基本構想について

(2) 美唄未来交響プラン前期基本計画について

(3) その他第6期美唄市総合計画の策定にかかわる事項について

(委員の定数)

4 本委員会の定数は16人とする。

(調査期間と閉会中の調査)

5 本委員会は、閉会中も調査を行うことができることとし、議会において調査終了を議決するまで委員会を継続存続する。

5のただいま申し上げました(調査期間と閉会中の審査)という表現となっておりますが、調査に訂正をいただきますように議長においてよろしくお取り計らいをお願いを申し上げます。

(経費)

6 本委員会の調査に要する経費は、議長の承認を得て支出する。

上記決議する。

平成22年9月17日

美唄市議会

議長内馬場克康君 だいま発言のありました、特別委員会設置に関する決議の中で第5番の調査期間と閉会中の「審査」になってございますものを、「調査」に改めてたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議ありませんので、そのように訂正いたしたいと思います。

お諮りいたします。

ただいま提案理由の説明ありました決議案第 1 号については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議なしと認めます。

よって、**決議案第 1 号第 6 期美唄市総合計画調査特別委員会設置に関する決議は、原案のとおり可決**いたしました。

お諮りいたします。

ただいま設置されました第 6 期美唄市総合計画調査特別委員会委員の選任については、委員会条例第 8 条第 1 項の規定により、

吉岡文子議員、森川明議員、
五十嵐聡議員、高田正則議員、
高橋幹夫議員、阿部義一委員、
長谷川吉春議員、米田良克議員、
白木優志議員、小関勝教議員、
土井敏興議員、本郷幸治議員、
紫藤政則議員、林国夫議員、
谷村孝一議員、内馬場克康の以上 16 人の
議員を指名いたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ご異議ありませんので、そのように決定いたしました。

以上をもちまして、今期定例会に付議されました各案件は、全部議了いたしました。

これをもって、平成 22 年第 3 回美唄市議会定例会は閉会いたします。

以上会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためここに
署名する。

議 長 _____

署 名 議 員 _____

署 名 議 員 _____